

大学番号 公立21

注3

設置年度 令和 2年度
計画の区分： 学部の設置
注1

認可

福知山公立大学 情報学部 情報学科
注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

公立大学法人福知山公立大学
令和3年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 学務・学生支援グループ

職名・氏名 グループマネージャー 内田晩穂

電話番号 0773-24-7100
(夜間)

e-mail junbishitsu@fukuchiyama.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

情報学部

<情報学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	14
5. 教員組織の状況	15
6. 附帯事項等に対する履行状況等	26
7. その他全般的事項	27

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

公立大学法人福知山公立大学

(2) 大学名

福知山公立大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒620-0886

京都府福知山市字堀3370

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イグチ カズキ) 井口 和起 (平成28年4月)		
学長	(イグチ カズキ) 井口 和起 (平成28年4月)		
学部長	(ニシダ トヨアキ) 西田 豊明 (令和2年4月)		
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)

令和3年度に報告する内容 → (3)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
情報学部 情報学科 学士（情報学）	工学関係	4年	100人	— 年次人	400人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	100人 () []		100人 () []								1.05倍	—	
志願者数	233 (-) [-]		290 (-) [-]										
受験者数	177 (-) [-]		228 (-) [-]										
合格者数	123 (-) [-]		119 (-) [-]										
B 入学者数	108 (-) [-]		103 (-) [-]										
入学定員超過率 B/A	1.08		1.03										

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	108 [-] (-)	[] ()	102 [-] (-)	[] ()	(令和3年度) ・2年次に他学部から転入1人を含む。
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	108 [-] (-)	[] ()	
3年次	/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
4年次	/		/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
計	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	108 [] ()	[] ()	210 [] ()	[] ()	

・ 令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成29年度	人	人	平成29年度	人	人	
平成30年度	人	人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	108人	1人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	1人	0人	就学意欲の低下(1人)
令和3年度	210人	1人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	0人	0人	
			令和3年度	1人	0人	他大学への入学(1人)
合計		2人		2人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{108} = \boxed{0.92} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{210} = \boxed{0.47} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<情報学部 情報学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
外国語科目群	English I	1前	1									2	
	English II	1後	1									2	
	English III	2前	1									2	
	English IV	2後	1									2	
	TOEIC I	3前		1								1	
	TOEIC II	3後		1								1	
	中国語 I	1前		1								2	
	中国語 II	1後		1								2	
	中国語 III	2前		1								1	
	中国語 IV	2後		1								1	
	異文化コミュニケーション	1後		1								1	
	小計 (11科目)	—	—	4	7	0	0	0	0	0	0	0	6
	人文系	哲学	1後		2								1
		論理学	2後		2								1
心理学		2前		2								1	
歴史学		1前		2								1	
地理学		1後		2								1	
教育学		1前		2								1	
文化人類学		1後		2								1	
多文化共生論		1前		2								1	
小計 (8科目)		—	—	0	16	0	0	0	0	0	0	0	8
社会系	法学概論	1後		2								1	
	日本国憲法	1前		2								1	
	民法	2前		2								1	
	商法	2後		2								1	
	人権論	1前		2								1	
	経営学入門	1前		2								1	
	経済学入門	1後		2		1						1	
	国際関係論	1後		2								1	
小計 (8科目)	—	—	0	16	0	1	0	0	0	0	0	4	
自然系	数学基礎 I *	1前		2				1					
	数学基礎 II *	1後		2				1					
	線形代数基礎 *	1前		2			1						
	微分積分基礎 *	1前		2			1						
	線形代数 *	2後		2			1						
	微分積分 *	2後		2			1						
	多変量解析 *	2前		2		1	1						
	線形計画法 *	2前		2				1					
	生物学	1前		2								1	
	健康学	2前		2								1	
	環境学	1後		2								1	
	栄養学	1後		2								1	
	体育実技 I	1前		1								1	
	体育実技 II	1後		1								1	
小計 (14科目)	—	—	0	26	0	1	2	1	0	0	0	4	

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
外国語科目群	English I	1前	1									2	
	English II	1後	1									2	
	English III	2前	1									2	
	English IV	2後	1									2	
	TOEIC I	3前		1								1	
	TOEIC II	3後		1								1	
	中国語 I	1前		1								2	
	中国語 II	1後		1								2	
	中国語 III	2前		1								1	
	中国語 IV	2後		1								1	
	異文化コミュニケーション	1後		1								1	
	小計 (11科目)	—	—	4	7	0	0	0	0	0	0	0	6
	人文系	哲学	1後		2								1
		論理学	2後		2								1
心理学		2前		2								1	
歴史学		1前		2								1	
地理学		1後		2								1	
教育学		1前		2								1	
文化人類学		1後		2								1	
多文化共生論		1前		2								1	
小計 (8科目)		—	—	0	16	0	0	0	0	0	0	0	8
社会系	法学概論	1後		2								1	
	日本国憲法	1前		2								1	
	民法	2前		2								1	
	商法	2後		2								1	
	人権論	1前		2								1	
	経営学入門	1前		2								1	
	経済学入門	1後		2		1						1	
	国際関係論	1後		2								1	
小計 (8科目)	—	—	0	16	0	1	0	0	0	0	0	4	
自然系	数学基礎 I *	1前		2				1					
	数学基礎 II *	1後		2				1					
	線形代数基礎 *	1前		2			1						
	微分積分基礎 *	1前		2			1						
	線形代数 *	2後		2			1						
	微分積分 *	2後		2			1						
	多変量解析 *	2前		2		1	1						
	線形計画法 *	2前		2				1					
	生物学	1前		2								1	
	健康学	2前		2								1	
	環境学	1後		2								1	
	栄養学	1後		2								1	
	体育実技 I	1前		1								1	
	体育実技 II	1後		1								1	
小計 (14科目)	—	—	0	26	0	1	2	1	0	0	0	4	

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	地域理解科目	地域文化論	1前	2								1
		地域情報学Ⅰ	1前	2		1						
		地域情報学Ⅱ	1後	2		1						
		行政学入門	1後	2								1
		地域資源論	1前	2								1
		観光総論	2前	2								1
		地域ベンチャー育成論	2後	2								1
		地域産業論	2前	2								1
		地域防災論	2後	2								1
		観光情報学	3後	2		1						
		地域福祉論	3後	2								2
		社会保障論	1後	2								2
	持続可能な社会論	2前	2								1	
	社会福祉論	2前	2								1	
	社会調査論	2前	2								1	
	統計学	1前	2			1						
	情報リテラシー	1後	2				1					
	データサイエンス入門	1前	2				1					
	経営情報システム論	2後	2								1	
	IT産業論	3前	2								1	
	知的財産論	3前	2								1	
	金融論	3前	2			1						
小計(22科目)	—	4	40	0	4	2	0	0	0	0	13	
専門教育科目	PBL	IT実習Ⅰ	1前	1			3	1				
		IT実習Ⅱ	1後	1				3	1			
		IT実習Ⅲ	2前	1			3	1	1			
		IT実習Ⅳ	2後	1			1	1	2			
		地域情報PBL入門	1	2			7	6	4			
		地域情報PBL基礎	2	2			7	6	4			
		地域情報PBL	3	4			7	6	4			
		地域情報プロジェクト	4	8			7	6	4			
		インターンシップ実習Ⅰ	3	1			1					
		インターンシップ実習Ⅱ	3	1			1					
		小計(10科目)	—	20	2	0	7	6	4	0	0	0
	情報専門基礎	コンピュータプログラミングⅠ	1前	2			1		1			
		コンピュータプログラミングⅡ	1後	2			1		1			
		インターネット	1前	2					1			
		情報学アカデミックスキル	2後	1			1					
		科学技術コミュニケーション	3後	1			1					
	小計(5科目)	—	6	2	0	3	0	2	0	0	0	
	データサイエンスストラック	実践系	サービスエンジニアリング	1・2前	2		1					
			オープンデータ技術	1・2後	2		1					
			データ理解	1・2前	2			1				
			データマーケティング	1・2後	2							1
		基盤系	データ解析ツール	2・3後	2		1	1				
基礎データ解析			2・3後	2		1	1					
統計的モデルを用いたシミュレーション			2・3前	2			1					
データマイニング			3・4前	2		1						
理論系		統計解析	3・4後	2			1					
		品質管理	3・4前	2				1				
		統計データモデリング	3・4後	2			1					
データ分析と意思決定	3・4後	2		1								
小計(12科目)	—	0	24	0	4	2	1	0	0	0		

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	地域理解科目	地域文化論	1前	2								1
		地域情報学Ⅰ	1前	2		1						
		地域情報学Ⅱ	1後	2		1						
		行政学入門	1後	2								1
		地域資源論	1前	2								1
		観光総論	2前	2								1
		地域ベンチャー育成論	2後	2								1
		地域産業論	2前	2								1
		地域防災論	2後	2								1
		観光情報学	3後	2		1						
		地域福祉論	3後	2								2
		社会保障論	1後	2								1
	持続可能な社会論	2前	2								1	
	社会福祉論	2前	2								1	
	社会調査論	2前	2								1	
	統計学	1前	2			1						
	情報リテラシー	1後	2				1					
	データサイエンス入門	1前	2				1					
	経営情報システム論	2後	2								1	
	IT産業論	3前	2								1	
	知的財産論	3前	2								1	
	金融論	3前	2			1						
小計(22科目)	—	4	40	0	4	2	0	0	0	0	13	
専門教育科目	PBL	IT実習Ⅰ	1前	1			2	1				1
		IT実習Ⅱ	1後	1				3	1			
		IT実習Ⅲ	2前	1			3	1	1			
		IT実習Ⅳ	2後	1			1	1	2			
		地域情報PBL入門	1	2			7	6	4			1
		地域情報PBL基礎	2	2			7	6	4			
		地域情報PBL	3	4			7	6	4			
		地域情報プロジェクト	4	8			7	6	4			
		インターンシップ実習Ⅰ	3	1			1					
		インターンシップ実習Ⅱ	3	1			1					
		小計(10科目)	—	20	2	0	6	6	4	0	0	0
	情報専門基礎	コンピュータプログラミングⅠ	1前	2			1		1			
		コンピュータプログラミングⅡ	1後	2			1		1			
		インターネット	1前	2					1			
		情報学アカデミックスキル	2後	1			1					
		科学技術コミュニケーション	3後	1			1					
	小計(5科目)	—	6	2	0	3	0	2	0	0	0	
	データサイエンスストラック	実践系	サービスエンジニアリング	1・2前	2		1					
			オープンデータ技術	1・2後	2		1					
			データ理解	1・2前	2			1				
			データマーケティング	1・2後	2							1
		基盤系	データ解析ツール	2・3後	2		1	1				
基礎データ解析			2・3後	2		1	1					
統計的モデルを用いたシミュレーション			2・3前	2			1					
データマイニング			3・4前	2		1						
理論系		統計解析	3・4後	2			1					
		品質管理	3・4前	2				1				
		統計データモデリング	3・4後	2			1					
データ分析と意思決定	3・4後	2		1								
小計(12科目)	—	0	24	0	4	2	1	0	0	0		

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	ICTトラック	実践系	地理情報システム	2・3前	2		1					
			情報ネットワーク	1・2後	2		1					
			組込みシステム	2・3前	2		1					
		基盤系	情報セキュリティ	2・3前	2		1					
			計算機アーキテクチャ	1・2前	2		1					
			データベースシステム	1・2後	2		1					1
			オペレーティングシステム	1・2後	2				1			
			分散システム	2・3後	2				1			
			プログラミング言語処理系	2・3後	2							1
	理論系	信号情報処理	3・4前	2		1	1					
		数値解析	3・4後	2				1				
		アルゴリズム論	3・4後	2		1						
		グラフ理論	3・4前	2				1			1	
		論理設計	3・4前	2			1					
		計算理論	3・4後	2		1						
	情報符号理論	3・4後	2		1							
	小計(16科目)	—	0	32	0	4	3	3	0	0	1	
	人間・社会情報学トラック	実践系	人工知能	1・2前	2		1					
			IoT	1・2後	2		1					
			エンタテインメント情報学	1・2前	2		1					
			メディア情報学	1・2後	2		1					1
		ゲーム情報学	1・2後	2				1				
		基盤系	情報システム	2・3後	2		1					
			ヒューマンインタフェース	2・3後	2		1					
機械学習システム			2・3前	2		1						
理論系		パターン認識と機械学習	3・4前	2		1		1				
		画像情報処理	3・4前	2		1						
		音情報処理	3・4後	2			1					
		自然言語処理	3・4後	2		1						
小計(12科目)	—	0	24	0	4	2	2	0	0	1		
合計(118科目)			—	34	189	0	8	6	4	0	0	33
卒業要件及び履修方法												
必修科目34単位、共通教育科目の外国語科目群の選択科目から2単位、一般教養科目群人文系の選択科目から6単位、社会系の選択科目から6単位、自然系の選択科目から6単位(ただし、*の科目から4単位を必ず修得すること)と人文系・社会系・自然系の一般教養科目群からさらに4単位、全学共通科目群の選択科目から18単位(地域理解科目から10単位を含む)、専門科目群の選択科目から48単位(同一トラックの実践系、基盤系、理論系からそれぞれ4単位を含む)を修得し、それ以外に共通教育科目および専門教育科目の中から4単位を修得すること。												

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	ICTトラック	実践系	地理情報システム	2・3前	2		1					
			情報ネットワーク	1・2後	2		1					
			組込みシステム	2・3前	2		1					
		基盤系	情報セキュリティ	2・3前	2		1					
			計算機アーキテクチャ	1・2前	2		1					
			データベースシステム	1・2後	2		1					
			オペレーティングシステム	1・2後	2				1			
			分散システム	2・3後	2				1			
			プログラミング言語処理系	2・3後	2							
	理論系	信号情報処理	3・4前	2		1	1					
		数値解析	3・4後	2				1				
		アルゴリズム論	3・4後	2		1						
		グラフ理論	3・4前	2				1				
		論理設計	3・4前	2			1					
		計算理論	3・4後	2		1						
	情報符号理論	3・4後	2		1							
	小計(16科目)	—	0	32	0	4	3	3	0	0	1	
	人間・社会情報学トラック	実践系	人工知能	1・2前	2		1					
			IoT	1・2後	2		1					
			エンタテインメント情報学	1・2前	2		1					
			メディア情報学	1・2後	2		1					
		ゲーム情報学	1・2後	2				1				
		基盤系	情報システム	2・3後	2		1					
			ヒューマンインタフェース	2・3後	2		1					
機械学習システム			2・3前	2		1						
理論系		パターン認識と機械学習	3・4前	2		1		1				
		画像情報処理	3・4前	2		1						
		音情報処理	3・4後	2			1					
		自然言語処理	3・4後	2		1						
小計(12科目)	—	0	24	0	4	2	2	0	0	1		
合計(118科目)			—	34	189	0	7	6	4	0	0	34
卒業要件及び履修方法												
必修科目34単位、共通教育科目の外国語科目群の選択科目から2単位、一般教養科目群人文系の選択科目から6単位、社会系の選択科目から6単位、自然系の選択科目から6単位(ただし、*の科目から4単位を必ず修得すること)と人文系・社会系・自然系の一般教養科目群からさらに4単位、全学共通科目群の選択科目から18単位(地域理解科目から10単位を含む)、専門科目群の選択科目から48単位(同一トラックの実践系、基盤系、理論系からそれぞれ4単位を含む)を修得し、それ以外に共通教育科目および専門教育科目の中から4単位を修得すること。												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	外国語科目群	English I	1前	1								2
		English II	1後	1								2
		English III	2前	1								2
		English IV	2後	1								2
		TOEIC I	3前		1							1
		TOEIC II	3後		1							1
		中国語 I	1前		1							2
		中国語 II	1後		1							2
		中国語 III	2前		1							1
		中国語 IV	2後		1							1
		異文化コミュニケーション	1後		1							1
	小計 (11科目)	—	4	7	0	0	0	0	0	0	0	7
	人文系	哲学	1後		2							1
		論理学	2後		2							1
		心理学	2前		2							1
		歴史学	1前		2							1
		地理学	1後		2							1
		教育学	1前		2							1
		文化人類学	1前		2							1
		多文化共生論	1前		2							1
		小計 (8科目)	—	0	16	0	0	0	0	0	0	0
	社会系	法学概論	1後		2							1
		日本国憲法	1前		2							1
		民法	2前		2							1
		商法	2後		2							1
		人権論	1前		2							1
		経営学入門	1前		2							1
		経済学入門	1後		2		1					1
		国際関係論	1後		2							1
		小計 (8科目)	—	0	16	0	1	0	0	0	0	0
	自然系	数学基礎 I *	1前		2				1			
		数学基礎 II *	1後		2				1			
		線形代数基礎 *	1前		2			1				
微分積分基礎 *		1前		2			1					
線形代数 *		2後		2			1					
微分積分 *		2後		2			1					
多変量解析 *		2前		2			1					
線形計画法 *		2前		2				1				
生物学		1前		2							1	
健康学		2前		2							1	
環境学		1後		2							1	
栄養学		1後		2							1	
体育実技 I		1前		1							1	
体育実技 II		1後		1							1	
小計 (14科目)	—	0	26	0	0	2	1	0	0	0	4	

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手	
共通教育科目	地域理解科目	地域文化論	1前	2							1	
		地域情報学Ⅰ	1前	2		1						
		地域情報学Ⅱ	1後	2		1						
		行政学入門	1後	2							1	
		地域資源論	1前	2							1	
		観光総論	2前	2							1	
		地域ベンチャー育成論	2前	2							1	
		地域産業論	2後	2							1	
		地域防災論	2後	2							1	
		観光情報学	3後	2		1						
		地域福祉論	3後	2							2	
		全学共通科目群	社会保障論	1後	2							1
	持続可能な社会論		2前	2							1	
	社会福祉論		2前	2							1	
	社会調査論		2前	2							1	
	統計学		1前	2		1						
	情報リテラシー		1前	2			1					
	データサイエンス入門		1前	2			1					
	経営情報システム論		2後	2							1	
	IT産業論		3前	2							1	
	知的財産論		3前	2							1	
	金融論	3前	2			1						
小計(22科目)	—	4	40	0	4	2	0	0	0	13		
専門教育科目	PBL	IT実習Ⅰ	1前	1			3	1				
		IT実習Ⅱ	1後	1				3	1			
		IT実習Ⅲ	2前	1			3	1	1			
		IT実習Ⅳ	2後	1			1	1	2			
		地域情報PBL入門	1	2			7	6	4			
		地域情報PBL基礎	2	2			7	6	4			
		地域情報PBL	3	4			7	6	4			
		地域情報プロジェクト	4	8			7	6	4			
		インターンシップ実習Ⅰ	3		1		1					
		インターンシップ実習Ⅱ	3		1		1					
	小計(10科目)	—	20	2	0	7	6	4	0	0	—	
	情報専門基礎	コンピュータプログラミングⅠ	1前	2			1		1			
		コンピュータプログラミングⅡ	1後	2			1		1			
		インターネット	1前	2					1			
		情報学アカデミックスキル	2後		1		1					
		科学技術コミュニケーション	3後		1		1					
	小計(5科目)	—	6	2	0	3	0	2	0	0	—	
	専門科目群	実践系	サービスエンジニアリング	1・2前	2		1					
			オープンデータ技術	1・2後	2		1					
			データ理解	1・2前	2			1				
データマーケティング			1・2後	2							1	
基盤系		データ解析ツール	2・3後	2		1						
		基礎データ解析	2・3後	2			1					
		統計的モデルを用いたシミュレーション	2・3前	2			1					
		データマイニング	3・4前	2		1						
理論系		統計解析	3・4後	2			1					
		品質管理	3・4前	2				1				
		統計データモデリング	3・4後	2			1					
		データ分析と意思決定	3・4後	2		1						
小計(12科目)	—	0	24	0	4	2	1	0	0	1		

【令和3年度】

科目区分	専任教員等の配置	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	ICTトラック	実践系	地理情報システム	2・3前	2		1						
			情報ネットワーク	1・2後	2			1					
			組込みシステム	2・3前	2			1					
		基盤系	情報セキュリティ	2・3前	2			1					
			計算機アーキテクチャ	1・2前	2			1					
			データベースシステム	1・2後	2			1					
			オペレーティングシステム	1・2後	2					1			
			分散システム	2・3後	2					1			
		理論系	プログラミング言語処理系	2・3後	2								1
			信号情報処理	3・4前	2		1	1					
			数値解析	3・4後	2					1			
			アルゴリズム論	3・4後	2		1						
			グラフ理論	3・4前	2					1			1
			論理設計	3・4前	2			1					
		計算理論	3・4後	2		1							
		情報符号理論	3・4後	2		1							
	小計(16科目)	—	0	32	0	4	3	3	0	0	0	1	
	人間・社会情報学トラック	実践系	人工知能	1・2前	2		1						
			IoT	1・2後	2			1					
			エンタテインメント情報学	1・2前	2		1						
			メディア情報学	1・2後	2			1					
		基盤系	ゲーム情報学	1・2後	2					1			
			情報システム	2・3後	2		1						
			ヒューマンインタフェース	2・3後	2		1						
機械学習システム			2・3前	2		1							
理論系		パターン認識と機械学習	3・4前	2		1			1				
		画像情報処理	3・4前	2		1							
		音情報処理	3・4後	2			1						
		自然言語処理	3・4後	2		1							
小計(12科目)	—	0	24	0	4	2	2	0	0	0	0		
合計(118科目)			—	34	189	0	8	6	4	0	0	33	
卒業要件及び履修方法													
必修科目34単位、共通教育科目の外国語科目群の選択科目から2単位、一般教養科目群人文系の選択科目から6単位、社会系の選択科目から6単位、自然系の選択科目から6単位(ただし、*の科目から4単位を必ず修得すること)と人文系・社会系・自然系の一般教養科目群からさらに4単位、全学共通科目群の選択科目から18単位(地域理解科目から10単位を含む)、専門科目群の選択科目から48単位(同一トラックの実践系、基盤系、理論系からそれぞれ4単位を含む)を修得し、それ以外に共通教育科目および専門教育科目の中から4単位を修得すること。													

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・教育効果の向上を図るため、「文化人類学」の配当年次を「1後」から「1前」に変更
- ・教育内容の充実のため、「社会保障論」を兼任教員によるオムニバスから単独での兼任教員の担当に変更のため、「社会保障論」の兼任・兼任教員数を「2」から「1」に変更
- ・申請書に記載の通り、令和3年度着任予定教授が、令和2年度は兼任教員として「IT実習Ⅰ」を担当するため、「IT実習Ⅰ」の教授数を「3」から「2」に変更
- ・申請書に記載の通り、令和3年度着任予定教授が、令和2年度は兼任教員として「地域情報PBL入門」を担当するため、「地域情報PBL入門」の教授数を「7」から「6」に変更

【令和3年度】

- ・受講者数に合わせて、「多変量解析」の教授数を「1」から「なし」に変更
- ・教育効果の向上を図るため、「地域ベンチャー育成論」の配当年次を「2後」から「2前」に変更
- ・教育効果の向上を図るため、「地域産業論」の配当年次を「2前」から「2後」に変更
- ・教育効果の向上を図るため、「情報リテラシー」の配当年次を「1後」から「1前」に変更
- ・申請書に記載の通り、令和3年度に教授1名が着任したため、「IT実習Ⅰ」の教授数を「2」から「3」に変更し、兼任教員を「1」から「なし」に変更
- ・申請書に記載の通り、令和3年度に教授1名が着任したため、「地域情報PBL入門」の教授数を「6」から「7」に変更し、兼任教員を「1」から「なし」に変更
- ・受講者数に合わせて、「データ解析ツール」の准教授数を「1」から「なし」に変更
- ・受講者数に合わせて、「基礎データ解析」の教授数を「1」から「なし」に変更
- ・受講者数に合わせて、「オペレーティングシステム」の兼任教員数を「1」から「なし」に変更
- ・受講者数に合わせて、「メディア情報学」の兼任教員数を「1」から「なし」に変更

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
17 科目	101 科目	0 科目	118 科目	17 科目 []	101 科目 []	0 科目 []	118 科目 []	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目 該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目 該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計 (A)}} = \frac{0}{118} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考						
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計							
	校舎敷地	21,006.35㎡	— ㎡	— ㎡	21,006.35㎡							
	運動場用地	8,764.78㎡	— ㎡	— ㎡	8,764.78㎡							
	小 計	29,771.13㎡	— ㎡	— ㎡	29,771.13㎡							
	そ の 他	— ㎡	— ㎡	— ㎡	— ㎡							
	合 計	29,771.13㎡	— ㎡	— ㎡	29,771.13㎡							
(2) 校舎	専 用	13,476.83㎡ 14,111.39㎡ (13,476.83㎡) (-14,111.39㎡)	共 用	共用する他の学校等の専用	計	老朽化した建物を除却したため(建築等設置計画変更は提出済)(3)設置認可申請書の記載に誤りがあったため令和3年度の設置計画履行状況報告書にて修正(3)						
			(— ㎡)	(— ㎡)	13,476.83㎡ 14,111.39㎡ (13,476.83㎡) (-14,111.39㎡)							
(3) 教室等	講義室	10室	演習室	16室	実験実習室	4室	情報処理学習施設	5室 (補助職員 一人)	語学学習施設	0室 (補助職員 一人)	大学全体	
	(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数		設置認可申請書の記載に誤りがあったため令和3年度の設置計画履行状況報告書にて修正(3)					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本					
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル				点	点	点		
		冊	種	[うち外国書]								
		情報学部情報学科	100,000 [3,955]	1,339 [44]				6 [3]	1,666	0	0	
計	100,000 [3,955]	1,339 [44]	6 [3]	1,666	0	0						
(6) 図書館	面 積	1,502㎡		閲覧座席数	126		収納可能冊数	108,210				
	面 積	— ㎡		体育館以外のスポーツ施設の概要				—				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書購入費には、電子ジャーナル、データベース経費を含む。			
		教員1人当り研究費等	1,000千円	1,000千円	図書購入費	13,830千円 15,530千円	10,830千円	4,300千円				
	共同研究費等	2,500千円	2,500千円	設備購入費	136,620千円 50,000千円	10,000千円	10,000千円					
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	データベース経費を含む。				
		576千円	576千円	576千円	576千円	—千円	—千円					
学生納付金以外の維持方法の概要		運営費交付金、寄付金、雑収入等										

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	福知山公立大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
地域経営学部											
地域経営学科	4	75	3年次 ₅	350	学士 (地域経営学)	1.02	1.01	令和2	平成12	京都府福知山市	
医療福祉経営学科	4	25	3年次 ₂	104	学士 (地域経営学)	1.09	1.04	—	平成12	字堀3370	
情報学部	4										
情報学科	4	100	—	400	学士 (情報学)	1.05	1.03	—	令和2		
大学全体	—	200	7	654	—	—	—	—	—		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
 (専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<情報学部 情報学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

【令和3年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	西田 豊明 <令和2年4月> 工学博士
		地域情報学Ⅰ 地域情報学Ⅱ IT実習Ⅲ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト インターンシップ実習Ⅰ インターンシップ実習Ⅱ 計算理論 情報符号理論 人工知能
専	教授	田中 克己 <令和2年4月> 工学博士
		IT実習Ⅰ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト オープンデータ技術 地理情報システム
専	教授	齋藤 達弘 <令和2年4月> 博士(経済学)
		経済学入門 金融論
専	教授	池野 英利 <令和3年4月> 博士(工学)
		多変量解析 IT実習Ⅰ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト データ解析ツール 基礎データ解析 信号情報処理
兼任	講師	池野 英利 <令和2年4月> 博士(工学)
		IT実習Ⅰ 地域情報PBL入門
専	教授	山本 吉伸 <令和2年4月> 博士(工学)
		観光情報学 IT実習Ⅰ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト サービスエンジニアリング データ分析と意思決定

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	西田 豊明 <令和2年4月> 工学博士
		地域情報学Ⅰ 地域情報学Ⅱ IT実習Ⅲ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト インターンシップ実習Ⅰ インターンシップ実習Ⅱ 計算理論 情報符号理論 人工知能
専	教授	田中 克己 <令和2年4月> 工学博士
		IT実習Ⅰ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト オープンデータ技術 地理情報システム
専	教授	齋藤 達弘 <令和2年4月> 博士(経済学)
		経済学入門 金融論
専	教授	池野 英利 <令和3年4月> 博士(工学)
		多変量解析 IT実習Ⅰ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト データ解析ツール 基礎データ解析 信号情報処理
兼任	講師	池野 英利 <令和2年4月> 博士(工学)
		IT実習Ⅰ 地域情報PBL入門
専	教授	山本 吉伸 <令和2年4月> 博士(工学)
		観光情報学 IT実習Ⅰ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト サービスエンジニアリング データ分析と意思決定

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	西田 豊明 <令和2年4月> 工学博士
		地域情報学Ⅰ 地域情報学Ⅱ IT実習Ⅲ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト インターンシップ実習Ⅰ インターンシップ実習Ⅱ 計算理論 情報符号理論 人工知能
専	教授	田中 克己 <令和2年4月> 工学博士
		IT実習Ⅰ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト オープンデータ技術 地理情報システム
専	教授	齋藤 達弘 <令和2年4月> 博士(経済学)
		経済学入門 金融論
専	教授	池野 英利 <令和3年4月> 博士(工学)
		IT実習Ⅰ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト データ解析ツール 信号情報処理
兼任	講師	
専	教授	山本 吉伸 <令和2年4月> 博士(工学)
		観光情報学 IT実習Ⅰ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト サービスエンジニアリング データ分析と意思決定

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	松山 江里 〈令和2年4月〉 博士(保健学)
		IT実習Ⅲ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト 情報学アカデミックスキル 科学技術コミュニケーション データマイニング 画像情報処理
専	教授	倉本 到 〈令和2年4月〉 博士(工学)
		統計学 IT実習Ⅳ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト コンピュータプログラミングⅡ アルゴリズム論 エンタテインメント情報学 ヒューマンインタフェース
専	教授	黄(黄) 宏軒 〈令和2年4月〉 博士(情報学)
		IT実習Ⅲ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト コンピュータプログラミングⅠ 情報システム 機械学習システム パターン認識と機械学習 自然言語処理
専	准教授	畠中 利治 〈令和2年4月〉 博士(情報科学)
		データサイエンス入門 IT実習Ⅱ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト 統計的モデルを用いたシミュレーション 統計解析 統計データモデリング
専	准教授	崔 童殷 〈令和2年4月〉 博士(工学)
		多変量解析 IT実習Ⅰ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト データ理解 データ解析ツール 基礎データ解析
専	准教授	橋田 光代 〈令和2年4月〉 博士(工学)
		IT実習Ⅲ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト 信号情報処理 メディア情報学 音情報処理

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	松山 江里 〈令和2年4月〉 博士(保健学)
		IT実習Ⅲ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト 情報学アカデミックスキル 科学技術コミュニケーション データマイニング 画像情報処理
専	教授	倉本 到 〈令和2年4月〉 博士(工学)
		統計学 IT実習Ⅳ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト コンピュータプログラミングⅡ アルゴリズム論 エンタテインメント情報学 ヒューマンインタフェース
専	教授	黄(黄) 宏軒 〈令和2年4月〉 博士(情報学)
		IT実習Ⅲ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト コンピュータプログラミングⅠ 情報システム 機械学習システム パターン認識と機械学習 自然言語処理
専	准教授	畠中 利治 〈令和2年4月〉 博士(情報科学)
		データサイエンス入門 IT実習Ⅱ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト 統計的モデルを用いたシミュレーション 統計解析 統計データモデリング
専	准教授	崔 童殷 〈令和2年4月〉 博士(工学)
		多変量解析 IT実習Ⅰ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト データ理解 データ解析ツール 基礎データ解析
専	准教授	橋田 光代 〈令和2年4月〉 博士(工学)
		IT実習Ⅲ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト 信号情報処理 メディア情報学 音情報処理

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	松山 江里 〈令和2年4月〉 博士(保健学)
		IT実習Ⅲ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト 情報学アカデミックスキル 科学技術コミュニケーション データマイニング 画像情報処理
専	教授	倉本 到 〈令和2年4月〉 博士(工学)
		統計学 IT実習Ⅳ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト コンピュータプログラミングⅡ アルゴリズム論 エンタテインメント情報学 ヒューマンインタフェース
専	教授	黄(黄) 宏軒 〈令和2年4月〉 博士(情報学)
		IT実習Ⅲ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト コンピュータプログラミングⅠ 情報システム 機械学習システム パターン認識と機械学習 自然言語処理
専	准教授	畠中 利治 〈令和2年4月〉 博士(情報科学)
		データサイエンス入門 IT実習Ⅱ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト 統計的モデルを用いたシミュレーション 統計解析 統計データモデリング
専	准教授	崔 童殷 〈令和2年4月〉 博士(工学)
		多変量解析 IT実習Ⅰ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト データ理解 データ解析ツール 基礎データ解析
専	准教授	橋田 光代 〈令和2年4月〉 博士(工学)
		IT実習Ⅲ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト 信号情報処理 メディア情報学 音情報処理

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	畠中 理英 〈令和2年4月〉 博士(情報科学)
		IT実習Ⅱ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト 組込みシステム 計算機アーキテクチャ 論理設計 IoT
専	准教授	衣川 昌宏 〈令和2年4月〉 博士(情報科学)
		情報リテラシー IT実習Ⅳ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト 情報ネットワーク 情報セキュリティ データベースシステム
専	准教授	渡邊 扇之介 〈令和2年4月〉 博士(理学)
		線形代数基礎 微分積分基礎 線形代数 微分積分 IT実習Ⅱ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト
専	講師	河合 宏紀 〈令和2年4月〉 博士(工学)
		IT実習Ⅳ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト インターネット パターン認識と機械学習
専	講師	眞鍋 雄貴 〈令和2年4月〉 博士(情報科学)
		IT実習Ⅱ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト コンピュータプログラミングⅠ コンピュータプログラミングⅡ 品質管理 分散システム
専	講師	藤井 叙人 〈令和2年4月〉 博士(工学)
		IT実習Ⅳ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト オペレーティングシステム グラフ理論 ゲーム情報学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	畠中 理英 〈令和2年4月〉 博士(情報科学)
		IT実習Ⅱ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト 組込みシステム 計算機アーキテクチャ 論理設計 IoT
専	准教授	衣川 昌宏 〈令和2年4月〉 博士(情報科学)
		情報リテラシー IT実習Ⅳ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト 情報ネットワーク 情報セキュリティ データベースシステム
専	准教授	渡邊 扇之介 〈令和2年4月〉 博士(理学)
		線形代数基礎 微分積分基礎 線形代数 微分積分 IT実習Ⅱ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト
専	講師	河合 宏紀 〈令和2年4月〉 博士(工学)
		IT実習Ⅳ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト インターネット パターン認識と機械学習
専	講師	眞鍋 雄貴 〈令和2年4月〉 博士(情報科学)
		IT実習Ⅱ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト コンピュータプログラミングⅠ コンピュータプログラミングⅡ 品質管理 分散システム
専	講師	藤井 叙人 〈令和2年4月〉 博士(工学)
		IT実習Ⅳ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト オペレーティングシステム グラフ理論 ゲーム情報学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	畠中 理英 〈令和2年4月〉 博士(情報科学)
		IT実習Ⅱ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト 組込みシステム 計算機アーキテクチャ 論理設計 IoT
専	准教授	衣川 昌宏 〈令和2年4月〉 博士(情報科学)
		情報リテラシー IT実習Ⅳ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト 情報ネットワーク 情報セキュリティ データベースシステム
専	准教授	渡邊 扇之介 〈令和2年4月〉 博士(理学)
		線形代数基礎 微分積分基礎 線形代数 微分積分 IT実習Ⅱ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト
専	講師	河合 宏紀 〈令和2年4月〉 博士(工学)
		IT実習Ⅳ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト インターネット パターン認識と機械学習
専	講師	眞鍋 雄貴 〈令和2年4月〉 博士(情報科学)
		IT実習Ⅱ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト コンピュータプログラミングⅠ コンピュータプログラミングⅡ 品質管理 分散システム
専	講師	藤井 叙人 〈令和2年4月〉 博士(工学)
		IT実習Ⅳ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト オペレーティングシステム グラフ理論 ゲーム情報学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) 〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	前田 一貴 〈令和2年4月〉 博士(情報学)
		数学基礎Ⅰ 数学基礎Ⅱ 線形計画法 IT実習Ⅲ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト 数値解析
兼任	教授	山田 篤 〈令和2年4月〉 博士(工学)
		オペレーティングシステム プログラミング言語処理系 グラフ理論 メディア情報学
兼任	教授	谷口 知弘 〈令和2年4月〉 工学修士
		地域資源論
兼任	教授	渋谷 節子 〈令和2年4月〉 Ph.D (Anthropology) (米国ハーバード大学)
		EnglishⅢ EnglishⅣ 異文化コミュニケーション 文化人類学
兼任	教授	神谷 達夫 〈令和2年4月〉 博士(工学)
		経営情報システム論
兼任	教授	中尾 誠二 〈令和2年4月〉 博士(農学)
		環境学 観光総論 持続可能な社会論
兼任	教授	鄭 年皓 〈令和2年4月〉 博士(商学)
		データマーケティング
兼任	准教授	佐藤 恵 〈令和2年4月〉 修士(経営学)
		論理学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) 〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	前田 一貴 〈令和2年4月〉 博士(情報学)
		数学基礎Ⅰ 数学基礎Ⅱ 線形計画法 IT実習Ⅲ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト 数値解析
兼任	教授	山田 篤 〈令和2年4月〉 博士(工学)
		オペレーティングシステム プログラミング言語処理系 グラフ理論 メディア情報学
兼任	教授	谷口 知弘 (56) 〈令和2年4月〉 工学修士
		地域資源論
兼任	教授	渋谷 節子 〈令和2年4月〉 Ph.D (Anthropology) (米国ハーバード大学)
		EnglishⅠ EnglishⅡ EnglishⅢ EnglishⅣ 異文化コミュニケーション 文化人類学
兼任	教授	神谷 達夫 〈令和2年4月〉 博士(工学)
		経営情報システム論
兼任	教授	中尾 誠二 〈令和2年4月〉 博士(農学)
		観光総論 持続可能な社会論
兼任	教授	倉田 良樹 〈令和2年4月〉 博士(社会学)
		環境学 哲学
兼任	教授	鄭 年皓 〈令和2年4月〉 博士(商学)
		データマーケティング
兼任	准教授	佐藤 恵 〈令和2年4月〉 修士(経営学)
		論理学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) 〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	前田 一貴 〈令和2年4月〉 博士(情報学)
		数学基礎Ⅰ 数学基礎Ⅱ 線形計画法 IT実習Ⅲ 地域情報PBL入門 地域情報PBL基礎 地域情報PBL 地域情報プロジェクト 数値解析
兼任	教授	山田 篤 〈令和2年4月〉 博士(工学)
		プログラミング言語処理系 グラフ理論
兼任	教授	谷口 知弘 〈令和2年4月〉 工学修士
		地域資源論
兼任	教授	渋谷 節子 〈令和2年4月〉 Ph.D (Anthropology) (米国ハーバード大学)
		異文化コミュニケーション 文化人類学
兼任	准教授	Anthony Walsh 〈令和3年4月〉 Master of Education (University of Southern Queensland)
		EnglishⅠ EnglishⅡ
兼任	教授	神谷 達夫 〈令和2年4月〉 博士(工学)
		経営情報システム論
兼任	教授	中尾 誠二 〈令和2年4月〉 博士(農学)
		観光総論
兼任	教授	倉田 良樹 〈令和2年4月〉 博士(社会学)
		環境学 哲学 持続可能な社会論
兼任	教授	鄭 年皓 〈令和2年4月〉 博士(商学)
		データマーケティング
兼任	准教授	佐藤 恵 〈令和2年4月〉 修士(経営学)
		論理学

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	星 雅文 〈令和2年4月〉 修士(保健学)
		地域福祉論※ 社会保障論※
兼担	准教授	加藤 好雄 〈令和2年4月〉 博士(経営学)
		経営学入門
兼担	准教授	三好 ゆう 〈令和2年4月〉 博士(経済学)
		社会保障論※
兼担	准教授	大谷 杏 〈令和2年4月〉 博士(教育学)
		English I English II 多文化共生論 国際関係論
兼担	准教授	杉岡 秀紀 〈令和2年4月〉 修士(政策科学)
		行政学入門
兼担	助教	佐藤 充 〈令和2年4月〉 修士(政策科学)
		地域産業論 社会調査論
兼担	助教	江上 直樹 〈令和2年4月〉 修士(教育学)
		教育学
兼担	助教	張 明軍 〈令和2年4月〉 経営修士
		中国語 I 中国語 II 中国語 III 中国語 IV
兼担	講師	平野 真 〈令和3年9月〉
		地域ベンチャー育成論

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	星 雅文 〈令和2年4月〉 修士(保健学)
		地域福祉論※
兼担	教授	川島 典子 〈令和2年4月〉 博士(政策科学)
		社会保障論
兼担	准教授	加藤 好雄 〈令和2年4月〉 博士(経営学)
		経営学入門
兼担	准教授	大谷 杏 〈令和2年4月〉 博士(教育学)
		多文化共生論 国際関係論
兼担	教授	藤島 光雄 (65) 〈令和2年4月〉 博士(法学)
		行政学入門
兼担	助教	佐藤 充 〈令和2年4月〉 修士(政策科学)
		地域産業論 社会調査論
兼担	助教	江上 直樹 〈令和2年4月〉 修士(教育学)
		教育学
兼担	助教	張 明軍 〈令和2年4月〉 経営修士
		中国語 I 中国語 II 中国語 III 中国語 IV
兼任	講師	劉 玉萍 〈令和2年4月〉
		中国語 I 中国語 II
兼任	講師	平野 真 〈令和3年9月〉
		地域ベンチャー育成論

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	星 雅文 〈令和2年4月〉 修士(保健学)
		地域福祉論※
兼担	教授	川島 典子 〈令和2年4月〉 博士(政策科学)
		社会保障論 社会福祉論
兼担	准教授	加藤 好雄 〈令和2年4月〉 博士(経営学)
		経営学入門
兼担	准教授	大谷 杏 〈令和2年4月〉 博士(教育学)
		English I English II 多文化共生論 国際関係論
兼担	教授	藤島 光雄 (66) 〈令和2年4月〉 博士(法学)
		行政学入門
兼担	助教	佐藤 充 〈令和2年4月〉 修士(政策科学)
		地域産業論 社会調査論
兼任	講師	江上 直樹 〈令和2年4月〉 修士(教育学)
		教育学
兼担	助教	張 明軍 〈令和2年4月〉 経営修士
		中国語 I 中国語 II 中国語 III 中国語 IV
兼任	講師	劉 玉萍 〈令和2年4月〉
		中国語 I 中国語 II

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) 〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	水間 みどり 〈令和3年4月〉 心理学
兼任	講師	芦田 信之 〈令和2年4月〉 生物学 健康学
兼任	講師	横山 泰昭 〈令和3年9月〉 地域防災論
兼任	講師	長谷川 順子 〈令和3年4月〉 EnglishⅢ EnglishⅣ
兼任	講師	西村 正芳 〈令和2年4月〉 歴史学
兼任	講師	川井 千枝 〈令和2年4月〉 体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ
兼任	講師	八瀬 正雄 〈令和2年4月〉 地域文化論
兼任	講師	岡本 匡弘 〈令和3年4月〉 地域福祉論※ 社会福祉論
兼任	講師	松本 学博 〈令和2年9月〉 地理学
兼任	講師	狭間 芳樹 〈令和2年9月〉 哲学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) 〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	水間 みどり 〈令和3年4月〉 心理学
兼任	講師	芦田 信之 〈令和2年4月〉 生物学 健康学
兼任	講師	横山 泰昭 〈令和3年9月〉 地域防災論
兼任	講師	長谷川 順子 〈令和3年4月〉 EnglishⅢ EnglishⅣ
兼任	講師	西村 正芳 〈令和2年4月〉 歴史学
兼任	講師	川井 千枝 〈令和2年4月〉 体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ
兼任	講師	八瀬 正雄 〈令和2年4月〉 地域文化論
兼任	講師	岡本 匡弘 〈令和3年4月〉 地域福祉論※ 社会福祉論
兼任	講師	松本 学博 〈令和2年9月〉 地理学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) 〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	亀井 省吾 〈令和3年4月〉 博士(学術) 地域ベンチャー育成論
兼任	講師	伊藤 直美 〈令和3年4月〉 博士(学術) 心理学
兼任	講師	芦田 信之 〈令和2年4月〉 生物学 健康学
兼任	講師	横山 泰昭 〈令和3年9月〉 地域防災論
兼任	講師	塩見 和広 〈令和3年4月〉 EnglishⅢ EnglishⅣ
兼任	講師	西村 正芳 〈令和2年4月〉 歴史学
兼任	講師	川井 千枝 〈令和2年4月〉 体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ
兼任	講師	八瀬 正雄 〈令和2年4月〉 地域文化論
兼任	講師	岡本 匡弘 〈令和3年4月〉 地域福祉論※
兼任	講師	松本 学博 〈令和2年9月〉 地理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	勝久 晴夫 〈令和4年4月〉
		IT産業論 知的財産論
兼任	講師	ミューリ真貴子 〈令和2年4月〉
		English I English II TOEIC I TOEIC II
兼任	講師	妻木 進吾 〈令和2年4月〉
		人権論
兼任	講師	鈴木 有貴子 〈令和2年9月〉
		栄養学
兼任	講師	櫻澤 隆哉 〈令和2年4月〉
		法学概論 日本国憲法 民法 商法
兼任	講師	徐 璐 〈令和2年4月〉
		中国語 I 中国語 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	勝久 晴夫 〈令和4年4月〉
		IT産業論 知的財産論
兼任	講師	ミューリ真貴子 〈令和2年4月〉
		English I English II TOEIC I TOEIC II
兼任	講師	妻木 進吾 〈令和2年4月〉
		人権論
兼任	講師	鈴木 有貴子 〈令和2年9月〉
		栄養学
兼任	講師	櫻澤 隆哉 〈令和2年4月〉
		法学概論 日本国憲法 民法 商法
兼任	講師	徐 璐 〈令和2年4月〉
		中国語 I 中国語 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	勝久 晴夫 〈令和4年4月〉
		IT産業論 知的財産論
兼任	講師	ミューリ真貴子 〈令和2年4月〉
		English III English IV TOEIC I TOEIC II
兼任	講師	妻木 進吾 〈令和2年4月〉
		人権論
兼任	講師	鈴木 有貴子 〈令和2年9月〉
		栄養学
兼任	講師	櫻澤 隆哉 〈令和2年4月〉
		法学概論 日本国憲法 民法 商法

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・教育的効果を考慮し、大谷杏兼担准教授の担当授業科目「English I」「English II」を渋谷節子兼担教授へ変更
- ・教育的効果を考慮し、中尾誠二兼担教授の担当授業科目「環境学」「持続可能な社会論」を倉田良樹兼担教授へ変更
- ・教育内容充実のため、狭間芳樹兼任講師の担当授業科目「哲学」を倉田良樹兼担教授へ変更
- ・教育的効果を考慮し、星雅丈兼担准教授と三好ゆう准教授のオムニバス担当による「社会保障論」を川島典子兼担教授による単独担当へ変更
- ・教育的効果を考慮し、杉岡秀紀兼担准教授の担当授業科目「行政学入門」を藤島光雄兼担教授へ変更
- ・教育内容充実のため、「中国語 I」「中国語 II」の担当教員に劉玉萍兼任講師追加

【令和3年度】

- ・受講者数に合わせて、池野英利専任教授の担当授業科目「多変量解析」「基礎データ解析」を削除
- ・受講者数に合わせて、崔童殷専任准教授の担当授業科目「データ解析ツール」を削除
- ・受講者数に合わせて、山田篤兼担教授の担当科目「オペレーティングシステム」「メディア情報学」を削除
- ・教員の負担軽減のため、渋谷節子兼担教授の担当授業科目「English I」「English II」「English III」「English IV」を削除
- ・教育内容充実のため、「English I」「English II」の担当教員にAnthony Walsh兼担准教授を追加
- ・教育的効果を考慮し、中尾誠二兼担教授の担当授業科目「持続可能な社会論」を倉田良樹兼担教授へ変更
- ・教育内容充実のため、岡本匡弘兼任講師の担当授業科目「社会福祉論」を川島典子兼担教授へ変更
- ・教育内容充実のため、「English I」「English II」の担当教員に大谷杏兼担准教授を追加
- ・他大学転出のため、江上直樹兼担助教から兼任講師に変更
- ・教育内容充実のため、平野真兼任講師の担当授業科目「地域ベンチャー育成論」を亀井省吾兼担教授へ変更
- ・教育的効果を考慮し、水間みどり兼任講師の担当授業科目「心理学」を伊藤直美兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、長谷川順子兼任講師の担当授業科目「English III」「English IV」を塩見和広兼任講師へ変更
- ・教育的効果を考慮し、ミューリ真貴子兼任講師の担当科目を「English I」から「English III」、「English II」から「English IV」に変更
- ・受講者数に合わせて、徐璐兼任講師の担当授業科目「中国語 I」「中国語 II」を削除

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
14 名	7 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
8	6	4	0	18	0	8	6	4	0	18	0
(7)	(6)	(4)	(0)	(17)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
8	6	4	0	18	0	8	6	4	0	18	0
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
68 歳	2 名	2 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{18}{18} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{2}{18} = \boxed{11.11} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
1							
2							
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)		
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{18} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画		
認 可 時 (令 和 元 年)	「メディア情報学」について、実践系科目として実社会に根ざした事例学修を更に充実して実施すること。	遵守事項	別紙の通り、授業計画に体験ワークやメディアコンテンツの事例学習、コミュニケーションゲームの実践といった要素を加え、実践系科目として充実した内容となるよう、シラバスを改訂した。このシラバスに基づいて初年度（令和2年度）の授業を実施済みである。	履行済	「学生による授業評価アンケート」の結果なども踏まえながら、今後も実践的な内容を更に充実させ、より専門的な学びへの動機付けとなるよう努める。
	「情報ネットワーク」について、実践系科目に位置付けるのであれば、実社会に根ざした事例学修を更に充実して実施するか、「基盤系科目」に位置付けること。	遵守事項	別紙の通り、授業計画に各回の内容に応じた実践演習を加え、実践系科目として充実した内容となるよう、シラバスを改訂した。このシラバスに基づいて初年度（令和2年度）の授業を実施済みである。	履行済	「学生による授業評価アンケート」の結果なども踏まえながら、今後も実践的な内容を更に充実させ、より専門的な学びへの動機付けとなるよう努める。
	IT実習Ⅰ～Ⅳのシラバスについて、設置の趣旨に示した実習の「テーマや内容」を適切に反映させること。	遵守事項	別紙の通り、各科目のシラバスの「到達目標」に反映させた。また「学期開始前のオリエンテーションにより詳細な資料を配布の上説明する」ことを記載し、実習の具体的な内容が学生に十分に伝わるように企図した。IT実習Ⅰ～Ⅲについては既に学期始めのオリエンテーションにおいて資料を配布のうえ授業計画の詳細を説明し、授業を実施している。今年度後期から開講のIT実習Ⅳについても同様に実施予定である。	履行中	今後もオリエンテーションの際に学生へ十分な説明を行い、計画通りに実施していく。
	「学生アシスタント」を配置する際には、求めるスキルや役割をあらかじめ明示し、ガイダンスを実施するなど、授業の実施に支障が生じないよう努めること。	遵守事項	初年度（令和2年度）の授業実施状況を踏まえ、より充実した指導体制とするため、今年度より1年次の実習科目については特に優秀な2年生の学生アシスタントを、給与も支払ったうえで配置することとした。本学部では1年次からPBLのゼミ配属を行い、教員が各学生の能力についてよく把握できているため、採用にあたっては当該科目の単位を修得済みであることに加え、ゼミ指導教員や科目担当教員の推薦を必要とすることとし、これによりアシスタントに必要なスキルを担保する。また、採用時には実習担当教員と学生アシスタントで入念な打ち合わせを行い、授業内での役割を明確にすることとしている。これにより、現在までのところは授業の実施に支障は生じていない。来年度以降は2年次の実習科目についても同様の方式をとる予定である。	履行中	来年度以降は3年生、4年生が育ってくるが、各実習科目にどの学年の学生を配置するのが受講学生・アシスタント学生の双方にとって有益であるか、慎重に検討したうえで制度を運用していく。アシスタントの学生にとっても後輩を教えることで既習事項についてより深く学ぶ効果があると期待している。
	「学生アシスタント」が確保できない場合は、必要に応じて助手や技術職員などの教育補助者を配置することが望ましい。	遵守事項	上記の通り、1年次の実習科目については今年度から2年生の学生アシスタントを配置している。2年次の実習科目については専任教員がアシスタントとして入っている。来年度以降は2年次の実習科目についても学生アシスタントが確保できる見通しであるが、教育補助者の雇用・配置についても必要があれば視野に入れる。	履行中	左記の通り、必要に応じて検討を進めていく。
該当なし					
設置計画履行状況調査時 (令和2年)					

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<情報学部 情報学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>本学では全学組織として、FD委員会を設置している。FD委員会は地域経営学部、情報学部の学部長2名と両学部より各1名の委員4名で構成されている。</p> <p>SDについては、全学組織としてSD委員会を設置している。教員も参加して実施するSD研修は令和2年度は、2回開催し、コンプライアンス、ハラスメントをテーマに実施した。これらの研修には教員も参加することで教員の資質の維持向上に努めた。令和3年度も令和2年度に準じて研修を計画している。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>FD委員会は、令和3年5月に開催し年間計画を作成する。令和3年度では年間を通して、4回程度開催する予定である。</p> <p>SD委員会については、年に数回の開催を計画している。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>FD委員会の審議事項としては、FD活動の計画立案、FD活動の実施計画の立案、FD活動の評価、FD活動に関する情報の収集と提供を行うことにしている。また、SD委員会の審議事項としては、SD活動の企画立案、SD活動の実施計画の立案、SD活動の評価、SD活動に関する情報の収集と提供としている。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none">FDについては、令和2年度は、遠隔授業（2回）、研究費不正防止、情報セキュリティ、ハラスメント予防、ジェンダー・LGBTへの対応をテーマに研修会を開催した。教員の参加率は全学で80%を超えており、教員各人が年度内に1度はFD研修に参加することができた。令和3年度は研究不正活動防止・研究費不正使用防止関係のデジタル教材を用いた学習、コロナ禍での学生ケアを題材とする、全教員を対象とした討論会を1回程度開催する。 <p>その他の内容</p> <ul style="list-style-type: none">SDについては、教員と職員の参加するものは、令和2年度には、コンプライアンス、ハラスメントの研修を実施し、ほとんどの教職員の参加を得た。職員を対象とする研修は、令和2年度には認証評価に関する研修、Zoomの基本操作に関する研修を実施し、認証評価制度と遠隔授業の実施方法について、理解が深められた。 <p>b 実施方法</p> <p>研修の方式は、コロナ禍に対応して、遠隔形式での研修を行った。研修を行う中で遠隔授業の方法についても習熟が図られた。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>令和2年4月22日に開催した第1回目の研修には、専任教員の97%に当たる38名が参加し、非常勤教員も十数名が参加した。令和2年度には他に5回の研修を実施し、教員の参加率は全学で80%を超えている。令和3年度については、研究不正活動防止・研究費不正使用防止関係のデジタル教材を用いた学習、コロナ禍での学生ケアを題材とする討論会を開催する。</p>
--

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

研修の中で得られた遠隔授業の実施方法に関する知見は、コロナ禍で遠隔授業の実施機会が格段に増加する中で、遠隔授業の実施に生かされた。初めての遠隔授業の実施において非常に有益なものとなった。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前学期は7月、後学期は1月に全ての授業に対して、学生に対する授業評価アンケートを実施しているその中で授業評価アンケートの回答者が6名以上の授業科目を担当する専任教員に対しては、リフレクションペーパーの提出を義務付け、受講学生の要望や質問に真摯に答えている。

b 教員や学生への公開状況、方法等

前学期は7月、後学期は1月に実施する授業評価アンケートを各学期のうちに集計し、学生には集計結果を公開している。教員に対しては、集計結果だけでなく、個別の授業科目の評価結果や自由記述もフィードバックし、授業内容と方法の改善と質の向上に努めている。

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

<p>① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見</p> <p>福知山公立大学の基本理念は、「市民の大学、地域のための大学、世界とともに歩む大学」であり、その理念の下に情報学部は情報学の体系・知識・知見・技術を学び、それらを用いて地域の価値向上や持続可能な社会の形成に寄与し、情報技術を開発・提供・応用・活用する多様な分野で活躍できる人財の育成を目的として開設された。</p> <p>情報学部の開設初年度である令和2年度は108名、開設2年目にあたる令和3年度は103名の新入生を受け入れ、1年生からゼミに所属し、課題解決に取り組むことで、コロナウイルス問題で前学期は全ての授業を遠隔授業で実施するという困難な状況の中においても、開設にあたって掲げた人財育成の目的に向かって進んでいる。</p> <p>② 自己点検・評価報告書</p> <p>a 公表（予定）時期</p> <p>本学では、平成28年度に点検・評価報告書を作成し公表した。その後は、法人評価における業務実績報告書を自己点検・評価報告書と位置付け、毎年度6月末に公表している。令和2年度は、これに加え、本学の自己点検・評価を実施し、令和3年4月に完成した。これは令和3年5月に公表する。</p> <p>b 公表方法</p> <p>・大学ホームページ上で公開している。</p> <p>③ 認証評価を受ける計画</p> <p>・令和6年度に一般財団法人大学教育質保証・評価センターで受審することを大学として決定した。</p>
--

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

<p>○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）</p> <p>a 公表予定の有無 [<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無]</p> <p>≪ aで「有」の場合 ≫</p> <p>b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 <input checked="" type="radio"/> 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]</p> <p>c 公表方法 [<input checked="" type="radio"/> ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]</p> <p>≪ aで公表「無」の場合 ≫</p> <p>d 公表しない理由 []</p>
--

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

シラバス参照

講義名	メディア情報学		
代表ナンバリングコード	B111HS004A		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
受講定員の有無	なし		
授業公開	科目等履修・聴講		
履修年次	1・2年次		

担当教員

氏名

◎ 橋田 光代

授業概要

メディアとは、情報の記録・保管あるいは伝達のための手段や方法のことである。たとえば情報を記録・保管するためのメディアには磁気ディスクや磁気テープ等がある。情報の伝達のためのメディアとしては、マスメディアやソーシャルメディア等がある。一方、これらのメディアで保管されたり伝達されたりする内容に着目すると、それらの表現手段として、言語、音、画像、映像等が使われており、これらもまたメディアである。本講義ではこれら表現手段としてのメディアに注目し、人間の知覚との関わりの中で、これらの特性や関連技術の概要について学ぶ。

到達目標

- (1) 情報を記録・伝達・表現する一連の手段としてのメディアの位置付けを理解する。
- (2) メディア技術を通じて、知識や情報がどのように伝達・変遷していくかを理解する。
- (3) 映像・音・言語各メディアの生成技術の概要について理解し、説明ができる。

授業計画

回	授業内容
第1回	世の中で、身の回りで、「メディア」になりうるもの
第2回	体験ワークから探る情報伝達と表現 (1) 集合体・コミュニティとしての意思形成
第3回	体験ワークから探る情報伝達と表現 (2) 五感・身体感覚との関わりと活用
第4回	体験ワークから探る情報伝達と表現 (3) 言語を介したコミュニケーション
第5回	知識や情報の「発見」と「共有」：計測、抽象化・具体化、関係の構築
第6回	知識や情報の「記録」と「再現」：記録メディアの歴史
第7回	知識や情報の「参照」と「応用」：コピーとアレンジ
第8回	知識や情報の「変換」と「融合」：マルチメディア化、メディアミックス、総合芸術
第9回	知識や情報の「維持」と「発展」：時代変遷、保存技術、意味の変容、風化・劣化
第10回	メディアコンテンツの事例学習 (1) 光、画像、映像
第11回	メディアコンテンツの事例学習 (2) 音、音楽、効果音
第12回	メディアコンテンツの事例学習 (3) 文字、言語、ソーシャルネットワーク
第13回	情報伝達とメディア表現の実践 (1) コミュニケーションゲームの企画と立案
第14回	情報伝達とメディア表現の実践 (2) コミュニケーションゲームの試行・深化
第15回	情報伝達とメディア表現の実践 (3) 発表・合評

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>（毎回の授業前に行うべき予習） 次の授業テーマに関連してどのような事例があるかを調べ、それらに関する疑問点を整理しておく。</p> <p>（毎回の授業終了後に行うべき復習） わからなかった点や疑問点が解消されたか、確認をする。解決していない点は仲間同士で話し合ったり、オフィスアワーを使って質問をする。</p> <p>（その他） 授業で取り上げた内容が、自分の身の回りでどのように使われているかについて考えてみる。</p>
他科目との関係性	【深化】メディア表現を理解するための人間と計算機との関係性については、2・3年次で学ぶ「ヒューマンインタフェース」で、メディア表現の理論的側面については3・4年次科目である「音情報処理」「画像情報処理」にて学ぶ。
評価方法（割合）	課題 (60%) 期末試験（合評） (40%)
評価基準	
秀	講義で扱った話題に紐づく独自の観察・調査を充実して行い、自分の言葉で説明できる。
優	講義で扱った話題を踏まえた観察・調査を充実して行い、適切な説明ができる。
良	講義で扱った話題をよく理解し、実践ワークに積極的に参加できる。
可	講義で扱った話題の大部分について最低限の説明ができ、実践ワークに参加できる。
不可	講義で扱った話題についての理解が不十分で、かつ実践ワークに参加しない。
放棄	出席回数が10回に満たない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業時間内の課題については次の授業の冒頭でポイントと考え方を説明する。試験（合評）については発表終了後に講評を行う。
テキスト	配付資料による
参考書・参考資料等	適宜授業時間内に提示
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	◎
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	○
メッセージ	<p>コンピュータを使ったメディアの処理は日常的なものになっています。それらを体系立てて理解するようにしましょう。なお、これらのメディアに関わる技術の詳細や理論的根拠については「画像情報処理」「音情報処理」「自然言語処理」といった理論系専門科目で学びます。</p> <p>【遠隔授業に向けて】特に序盤と終盤において、マイクとビデオをONにしてもらうことがあります。特に初回は一度は両方ONにしてもらいます。履修人数も考慮しつつ予告するようにしますが、求められた際は応じられるように受講環境を準備してください。</p>
教員との連絡方法	授業終了後の昼休みに質問・雑談タイムを設けます。その他、Webclass、Slack、研究室前等に適宜、面談可能な時間帯を掲示します。
担当教員の実務経験	-
備考	※新型コロナウイルス感染症の状況により、本シラバスの内容が変更となる場合があります。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	情報ネットワーク		
代表ナンバリングコード	B1111T002A		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
受講定員の有無	なし		
授業公開	科目等履修・聴講		
履修年次	1・2年次		

担当教員

氏名

◎ 衣川 昌宏

授業概要	インターネットに代表される、情報社会を支えるインフラストラクチャ（基盤）技術である情報ネットワークは、人とのインタフェースであるコンピュータ端末（スマートフォンやパーソナルコンピュータ）から意識することなく利用できることが当然となっている。しかし、その空気や水と同様に当然のように利用できる裏側には、情報を正しく・高速に・途切れることなく伝える技術である情報ネットワークとそれを支える人たちが存在している。本講義では、情報ネットワークの仕組みを理解すると共に、実際にインターネットを利用するプログラムの開発を通してコンピュータから情報ネットワークを利用するための基礎知識を学習する。
到達目標	情報ネットワークの概要を理解し、情報ネットワークの設計や情報ネットワークをもちいたアプリケーションソフトウェアの設計・活用に必要な考え方に大きな関心を持つようにするため、次の3点を到達目標とする。 1. 情報ネットワークを支える理論・技術を説明できる 2. 情報ネットワークの階層構造を説明できる 3. TCP/IPを用いた簡単なアプリケーションソフトウェアを製作できる

授業計画

回	授業内容
第1回	ガイダンス、情報ネットワークとは、受講にあたってBYOD PCの準備
第2回	インターネットを支える技術（1）：IPv4/IPv6、情報ネットワークの実践（1）：インターネットの地図作成
第3回	インターネットを支える技術（2）：ネットワーク構成機器、情報ネットワークの実践（2）：身近な機器を探そう
第4回	インターネットを支える技術（3）：LAN・WAN・ゲートウェイ、情報ネットワークの実践（3）：身近な機器を探そう（続）
第5回	インターネットを支える技術（4）：バンド幅とスループット、情報ネットワークの実践（4）：バンド幅の計測
第6回	インターネットを支える技術（5）：輻輳とルーティング、情報ネットワークの実践（5）：海外へのルーティングの調査
第7回	ネットワークセキュリティの基礎、情報ネットワークの実践（6）：Windowsのファイアウォール機能の利用
第8回	TCP/IP（1）：情報ネットワークの階層構造・OSI階層モデル、情報ネットワークの実践（7）：Wiresharkを使ったプロトコル観察
第9回	TCP/IP（2）：物理層・データリンク層、情報ネットワークの実践（8）：Wiresharkを使ったプロトコル観察（続）
第10回	TCP/IP（3）：ネットワーク層、情報ネットワークの実践（9）：Wiresharkを使ったプロトコル観察（続）
第11回	TCP/IP（4）：トランスポート層、情報ネットワークの実践（10）：Wiresharkを使ったプロトコル観察（続）
第12回	TCP/IP（5）：インターネット上のサービスとの関係、情報ネットワークの実践（11）：Wiresharkを使ったプロトコル観察（続）
第13回	情報ネットワークの実践（12）：ソケットプログラミング
第14回	情報ネットワークの実践（13）：自作ソフトウェアでWebページを閲覧する

第15回 まとめ：情報通信の未来	
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>（毎回の授業前に行うべき予習） 各回で学ぶ教科書の章を読み、講義内容の概要を理解しておくこと。理解できない事柄をノートにまとめておくこと。 関連資料を読んだり、関連情報を調べたりしてノートを作成すること。（BYOD 端末上のノートアプリケーション、紙のノートどちらでも良い）</p> <p>（毎回の授業終了後に行うべき復習） 講義で講じた内容をもう一度読んでおくこと。特に、講義中のメモ等は記憶が新しいうちに教科書やノートへ情報を補足しておくこと。 講義で学んだことや考えたことに関する資料を調べたり、人と話したりして複数の視点からの理解を深めておくこと。</p> <p>（その他） 自分の身の回りにある情報機器についても、情報ネットワークがどのように役に立っているのか考えてみる。</p>
他科目との関係性	<p>【深化】情報ネットワーク上を流れる情報の理論的側面は3・4年次の「情報符号理論」に譲る。また、ネットワーク上の情報に対する安全性を確保するための技術については、2・3年次の「情報セキュリティ」で学ぶ。</p> <p>【発展】情報ネットワーク上に構築される多数の計算機からなるシステムについて、2・3年次の「分散システム」で学ぶ。</p>
評価方法（割合）	<p>適宜「理解度試験・演習」を実施（計40 %） 期末に試験を実施（60 %） 合計100点（100 %）</p>
評価基準	
秀	情報ネットワークの詳細を説明でき、簡単なネットワークプログラムを作成できる。
優	具体的な情報ネットワークの動作と構造を自分の言葉で説明できる。
良	情報ネットワークの動作と構造を理解し、インターネットの概要を説明できる。
可	情報ネットワークの基本的な構造と動作を理解し、説明できる。
不可	情報ネットワークの構造や動作を理解していない。
放棄	出席回数が10回に満たない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	「理解度試験・演習」を踏まえ、学生の理解度を確認しつつ、還元すべき事項について次回授業で説明する。
テキスト	<p>【書名】基本からわかる情報通信ネットワーク講義ノート 【著者】大塚 裕幸・小川 猛志・金井 敦・久保田 周治・馬場 健一・宮保 憲治 【出版社】オーム社 【出版年】2016年 【ISBNコード】978-4274218354</p>
参考書・参考資料等	「ネットワークはなぜつながるのか 第2版」戸根 勤 著（日経BP社）
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	◎
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	○
メッセージ	普段使用しているアプリケーションソフトウェアはいつ通信しているのでしょうか。その便利さを支える縁の下の力持ち「情報ネットワーク」技術を学んで、インターネットだけでなく多種多様な通信技術を応用できる知識と技術を身につけましょう。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	情報ネットワーク設計構築運用、ネットワークプログラム開発
備考	BYOD PCを持参すること。講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、講義に関係の無い携帯電話の操作を慎むこと。

2021/5/27

シラバス参照

※新型コロナウイルス感染症の状況により、本シラバスの内容が変更となる
ことがあります。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	IT実習I		
代表ナンバリングコード	B111SE0010		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
受講定員の有無	あり（別途連絡）		
授業公開	なし		
履修年次	1年次		

担当教員

氏名

◎ 池野 英利

授業概要

IT実習ではプログラミングや各種ツールの使用等、情報技術に関する実習を行う。
本実習では「実世界から情報学へ-データサイエンスの世界-」という共通テーマを設け、担当教員が提示する実習テーマの中から一つを選択し実施する。
IT実習Iでは主にデータサイエンスに関する実習を行う。

到達目標

- ・データの検索やアンケート・計測によるデータ取得を通じ、自身の研究やコンテンツ作成に必要なスキルを獲得する
- ・Rなどを用いて基本的な統計データ処理が行え、獲得したデータの分析・加工ができる
- ・結果をまとめたプレゼンテーションや報告書の作成ができる
- ・以上の到達目標に達するために必要な程度にはPC操作に習熟している

授業計画

回	授業内容
第1回	情報リテラシー実践1：インターネットとPC概要
第2回	情報リテラシー実践2：インターネット接続の仕組み
第3回	情報リテラシー実践3：検索エンジンからのデータの獲得
第4回	情報リテラシー実践4：Webからの情報発信
第5回	情報リテラシー実践5：アンケート設計とプレゼンテーション
第6回	情報リテラシー実践6：R/RStudioのインストールと利用
第7回	テーマごとの実習1：課題の解決に向けた計画・準備
第8回	テーマごとの実習2：計画に沿った活動(1)
第9回	テーマごとの実習3：計画に沿った活動(2)
第10回	テーマごとの実習4：計画に沿った活動(3)
第11回	テーマごとの実習5：計画に沿った活動(4)、進捗によって計画の見直し
第12回	テーマごとの実習6：計画に沿った活動(5)
第13回	テーマごとの実習7：計画に沿った活動(6)
第14回	テーマごとの実習8：計画に沿った活動(7)
第15回	報告会

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
予め実習に向けて指示された準備を行う。

	(毎回の授業終了後に行うべき復習) 実習内容を振り返り、確認を行う。
	(その他) 各実習テーマの具体的な内容と授業計画については、テーマごとの実習の初回に詳細に説明する。
他科目との関係性	【関連】「IT実習Ⅰ～Ⅳ」は必修科目であり、人間・社会情報学トラック、データサイエンストラック、ICTトラックにおける専門技術を身につけるための、基本的なスキルを修得し、ツールを使えるようになることを目的としたものであるため、配当された学期のテーマの中から逐次修得すること。
評価方法(割合)	中間評価 (40%) 最終報告 (60%)
評価基準	
秀	与えられた課題を主体的に解決し、優れた報告書をまとめることができる。
優	与えられた課題を解決し、報告書を適切な形にまとめることができる。
良	与えられた課題に取り組み、得られた成果を報告することができる。
可	与えられた課題に取り組み、実習での自身の活動内容を報告することができる。
不可	与えられた課題への取り組みが不十分であり、活動内容を報告できない。
放棄	出席回数が10回に満たない。
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	授業内で講評する。
テキスト	【書名】RとPythonで学ぶ実践的データサイエンス&機械学習 【著者】有賀友紀・大橋俊介 【出版社】技術評論社 【出版年】2019年 【ISBNコード】978-4-297-10508-2
参考書・参考資料等	講義資料は授業中配布する。参考書は適宜指示する。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	○
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	○
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	○
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	◎
メッセージ	プログラミングや各種ツールを使いこなせるようになろう。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	-
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。 ※新型コロナウイルス感染症の状況により、本シラバスの内容が変更となる場合があります。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	IT実習II		
代表ナンバリングコード	B111SE0020		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
受講定員の有無	あり（別途連絡）		
授業公開	なし		
履修年次	1年次		

担当教員

氏名

◎ 島中 利治

授業概要	IT実習ではプログラミングや各種ツールの使用等、情報技術に関する実習を行う。 本実習では「ITの世界」という共通テーマを設け、担当教員が提示する実習テーマの中から一つを選択し実施する。IT実習Ⅱでは主に情報通信技術に関する実習を行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に用いるデバイスの仕様、特性を概ね理解し、適切に動作させることができる ・課題の解決のためにどのようなシステムやプログラムが必要になるか、数理的・論理的な思考法を用いて議論することができる ・デバイスとコンピュータをどのように組み合わせ、どのようなプログラムを組めば課題の解決に必要なシステムを構築できるか検討し、実際に設計したシステムやプログラムを作成することができる ・作成したシステムやプログラムを適切に制御・動作させ、課題を解決することができる ・結果をまとめたプレゼンテーションや報告書の作成ができる

授業計画

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	実習内容の理解・準備作業（課題の解決に向けて計画を立てる）
第3回	実習内容の理解・準備作業（計画の実施に向けた準備）
第4回	実習（計画に沿った活動1）
第5回	実習（計画に沿った活動2）
第6回	実習（計画に沿った活動3、進捗によって計画の見直し）
第7回	実習（計画に沿った活動4）
第8回	中間発表の準備
第9回	中間発表
第10回	実習（中間発表の振り返り、それを踏まえて計画の見直し）
第11回	実習（計画に沿った活動5）
第12回	実習（計画に沿った活動6）
第13回	実習（計画に沿った活動7）
第14回	報告会の準備
第15回	報告会（まとめ）

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>（毎回の授業前に行うべき予習） 予め実習に向けて指示された準備を行う。</p> <p>（毎回の授業終了後に行うべき復習） 実習内容を振り返り、確認を行う。</p> <p>（その他） 各実習テーマの具体的な内容と授業計画については、学期開始前のオリエンテーションでより詳細な資料を配布のうえ説明する。 これを参考に自身の興味にあったテーマを一つ選択のうえ、実習に臨むこと。</p>
他科目との関係性	【関連】「IT実習Ⅰ～Ⅳ」は必修科目であり、人間・社会情報学トラック、データサイエンストラック、ICTトラックにおける専門技術を身につけるための、基本的なスキルを修得し、ツールを使えるようになることを目的としたものであるため、配当された学期のテーマの中から逐次修得すること。
評価方法（割合）	<p>中間評価 (40%)</p> <p>最終報告 (60%)</p>
評価基準	
秀	与えられた課題を主体的に解決し、優れた報告書をまとめることができる。
優	与えられた課題を解決し、報告書を適切な形にまとめることができる。
良	与えられた課題に取り組み、得られた成果を報告することができる。
可	与えられた課題に取り組み、実習での自身の活動内容を報告することができる。
不可	与えられた課題への取り組みが不十分であり、活動内容を報告できない。
放棄	出席回数が10回に満たない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で講評する。
テキスト	なし
参考書・参考資料等	講義資料は授業中配布する。参考書は適宜指示する。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	○
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	◎
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	○
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	◎
メッセージ	プログラミングや各種ツールを使いこなせるようになろう。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	-
備考	<p>講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の状況により、本シラバスの内容が変更となる場合があります。</p>

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	IT実習Ⅲ		
代表ナンバリングコード	BI12SE0030		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
受講定員の有無	あり（別途連絡）		
授業公開	なし		
履修年次	2年次		

担当教員

氏名

◎ 西田 豊明

授業概要	IT実習ではプログラミングや各種ツールの使用等、情報技術に関する実習を行う。 本実習では「メディア情報学-AIの世界-」という共通テーマを設け、担当教員が提示する実習テーマの中から一つを選択し実施する。IT実習Ⅲでは主にAIに関する実習を行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストや音、画像といったデータがコンピュータ上でどのように表現されるか、およびテキストマイニングやフィルタ適用といった処理の仕組みの概要を理解し、プログラミングによって実際に解析やメディア処理ができる ・機械学習の仕組みの概要を理解し、特徴抽出や認識・分類などの課題を機械学習を用いて解決できる ・上記の機能を有するライブラリを自身のプログラムに組み込み、同様の処理を実行できる ・結果をまとめたプレゼンテーションや報告書の作成ができる

授業計画

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	実習内容の理解・準備作業（課題の解決に向けて計画を立てる）
第3回	実習内容の理解・準備作業（計画の実施に向けた準備）
第4回	実習（計画に沿った活動1）
第5回	実習（計画に沿った活動2）
第6回	実習（計画に沿った活動3、進捗によって計画の見直し）
第7回	実習（計画に沿った活動4）
第8回	中間発表の準備
第9回	中間発表
第10回	実習（中間発表の振り返り、それを踏まえて計画の見直し）
第11回	実習（計画に沿った活動5）
第12回	実習（計画に沿った活動6）
第13回	実習（計画に沿った活動7）
第14回	報告会の準備
第15回	報告会（まとめ）

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）

	<p>予め実習に向けて指示された準備を行う。</p> <p>(毎回の授業終了後に行うべき復習) 実習内容を振り返り、確認を行う。</p> <p>(その他) 各実習テーマの具体的な内容と授業計画については、学期開始前のオリエンテーションでより詳細な資料を配布のうえ説明する。 これを参考に自身の興味にあったテーマを一つ選択のうえ、実習に臨むこと。</p>
他科目との関係性	【関連】「IT実習Ⅰ～Ⅳ」は必修科目であり、人間・社会情報学トラック、データサイエンストラック、IGTトラックにおける専門技術を身につけるための、基本的なスキルを修得し、ツールを使えるようになることを目的としたものであるため、配当された学期のテーマの中から逐次修得すること。
評価方法 (割合)	<p>中間評価 (40%)</p> <p>最終報告 (60%)</p>
評価基準	
秀	与えられた課題を主体的に解決し、優れた報告書をまとめることができる。
優	与えられた課題を解決し、報告書を適切な形にまとめることができる。
良	与えられた課題に取り組み、得られた成果を報告することができる。
可	与えられた課題に取り組み、実習での自身の活動内容を報告することができる。
不可	与えられた課題への取り組みが不十分であり、活動内容を報告できない。
放棄	出席回数が10回に満たない。
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法	授業内で講評する。
テキスト	なし
参考書・参考資料等	講義資料は授業中配布する。参考書は適宜指示する。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
【2020年度】地域実践の基盤となる基礎学力、基礎技術力をもつ人財	
【2020年度】地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる人財	○
【2020年度】地域経営学科は、地域社会の多様な主体に関心を持ち、地域経営学の知見や技術を応用・活用して、地域の価値の向上や持続可能な社会の形成に寄与できる人財。公共経営、企業経営、交流観光等の分野で活躍できる人財	◎
【2020年度】医療福祉経営学科は、地域社会の多様な主体に関心を持ち、地域経営学の知見や技術を応用・活用して、地域の価値の向上や持続可能な社会の形成に寄与できる人財。診療情報管理士の資格取得を目指しつつ、医療福祉経営等の分野で活躍できる人財	○
≪2017～2019年度≫学んだ知識と国際的視野をもって地域社会や様々な現実の場で実践し応用できる人財 (グローバルリスト)	○
≪2017～2019年度≫地域力の推進役 (キーパーソン: リーダー、マネージャー、コーディネーター) として活躍できる人財	
≪2017～2019年度≫地域経営学科は、地域社会の多様な主体に関心を持ち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財、とくに経営概念を主軸とした公共経営系、企業経営系、交流観光系に関する人財	
≪2017～2019年度≫医療福祉経営学科は、診療情報管理士 (日本病院会等の認定資格) の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通して地域に貢献できる人財	
メッセージ	プログラミングや各種ツールを使いこなせるようになるよう。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	-
備考	<p>講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の状況により、本シラバスの内容が変更となる場合があります。</p>

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	IT実習Ⅳ		
代表ナンバリングコード	BI12SE0040		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
受講定員の有無	あり（別途連絡）		
授業公開	なし		
履修年次	2年次		

担当教員	
氏名	
◎ 倉本 到	

授業概要	IT実習ではプログラミングや各種ツールの使用等、情報技術に関する実習を行う。 本実習では「ヒューマンインタフェース-混合現実の世界-」という共通テーマを設け、担当教員が提示する実習テーマの中から一つを選択し実施する。IT実習Ⅳでは主に混合現実に関する実習を行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・混合現実環境を構築する技術について理解し、その特徴を活かした設計・開発ができる ・混合現実に関する課題に対して、チームで取り組むことができる ・チームによる開発の実際を理解し、基本的なプロジェクトを設計することができる ・結果をまとめたプレゼンテーションや報告書の作成ができる

授業計画	
回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	実習内容の理解・準備作業（課題の解決に向けて計画を立てる）
第3回	実習内容の理解・準備作業（計画の実施に向けた準備）
第4回	実習（計画に沿った活動1）
第5回	実習（計画に沿った活動2）
第6回	実習（計画に沿った活動3、進捗によって計画の見直し）
第7回	実習（計画に沿った活動4）
第8回	中間報告会の準備
第9回	中間報告会
第10回	実習（計画に沿った活動5）
第11回	実習（計画に沿った活動6）
第12回	実習（計画に沿った活動7、進捗によって計画の見直し）
第13回	実習（計画に沿った活動8）
第14回	報告会の準備
第15回	報告会（まとめ）
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	（毎回の授業前に行うべき予習） 予め実習に向けて指示された準備を行う。

シラバス参照

	(毎回の授業終了後に行うべき復習) 実習内容を振り返り、確認を行う。 (その他) 各実習テーマの具体的な内容と授業計画については、学期開始前のオリエンテーションでより詳細な資料を配布のうえ説明する。 これを参考に自身の興味にあったテーマの一つ選択のうえ、実習に臨むこと。
他科目との関係性	【関連】「IT実習Ⅰ～Ⅳ」は必修科目であり、人間・社会情報学トラック、データサイエンストラック、ICTトラックにおける専門技術を身につけるための、基本的なスキルを修得し、ツールを使えるようになることを目的としたものであるため、配当された学期のテーマの中から逐次修得すること。 【発展】「IT実習Ⅰ～Ⅳ」で専門的な基本スキルを身につけたあと、「インターン実習Ⅰ」に進み、社会で実践することを勧める。
評価方法(割合)	中間報告 (50%) 最終報告 (50%)
評価基準	
秀	与えられた課題を主体的に解決し、優れた報告書をまとめることができる。
優	与えられた課題を解決し、報告書を適切な形にまとめることができる。
良	与えられた課題に取り組み、得られた成果を報告することができる。
可	与えられた課題に取り組み、実習での自身の活動内容を報告することができる。
不可	与えられた課題への取り組みが不十分であり、活動内容を報告できない。
放棄	出席回数が10回に満たない。
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	授業内で講評する。
テキスト	なし
参考書・参考資料等	講義資料は授業中配布する。参考書は適宜指示する。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	◎
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	○
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	○
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	○
メッセージ	プログラミングや各種ツールを使いこなせるようになろう。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	-
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。 ※新型コロナウイルス感染症の状況により、本シラバスの内容が変更となることがあります。

[ウィンドウを閉じる](#)